

第4学年学級活動（1）授業案

研究テーマ

子どもたちが進んで話し合い、合意形成ができる力を育む授業

授業を通して育成したい子どもの姿

友だちの考えを聞いたり、生かしたりしながら「自分もよく、みんなもよい」方法を考え、合意形成しようとしている姿

1 議題 「ゲストティーチャーの方々へのお礼の会をしよう」（ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決）

2 学級活動（1）で育成を目指す資質・能力

みんなで楽しい学級をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解すると共に、意見の比べ方やまとめ方を理解し、活動の方法を身に付けることができる。 [知識及び技能]

楽しい学級生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について理由等を比べ合いながら合意形成を図り、協力し合って実践することができる。 [思考力、判断力、表現力等]

楽しい学級をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えを生かし、役割を果たして集団活動に取り組もうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

3 見取った子どもの姿と議題選定の理由

第9回学級会「学級のマスコットキャラクターを作ろう」の、話し合いをまとめる場面のことである。比べ合う場面で多くの意見が出た後、S男は「やっぱり学級目標の『笑顔・やさしい・協力』の全部が入っているキャラクターにしたい」と、話した。それを聞いたA男は「『③のコウモリ』は、仲間と餌を分けて生活していて『やさしい』し『協力』も入っているし『笑顔』のキャラクターだよ」と、話し、全体で合意形成することができた。授業者は、学級目標を常に意識して考えるS男や、その考えを生かして全体で合意形成しようと提案したA男の姿が学級全体に広がっていくことで「自分もよく、みんなもよい」方法を考え、互いの考えを認め合い、高め合う集団になっていくと考えている。

そこで本議題に向かうため、これまでの調べ学習や登山の経験を振り返ったり、学年発表の活動に取り組みながら「学級全員でゲストティーチャーへお礼が伝わるようにするには、どのようにしたらよいのか」考えることができるようにしたい。また、本時は「お礼の会で何をするのか」を話し合う中で「どうしてその活動がお礼になるのか」を問い返すことで、子どもたちが納得して合意形成することができるようにしていきたい。

議題提案カードには総合的な学習の時間に2度ゲストティーチャーとして来校していただき、先日18日（水）に安達太良山登山をガイドしてくださった渡辺茂雄さんと中山大輝さん（以下、ゲストティーチャーとする）に対して「4年生全員でお礼がしたい」という考えが10名から寄せられた。そこで「4年生全員が協力することでお礼の気持ちが表現できるのではないかと提案者と計画委員で相談した。また、総合的な学習の時間と学級活動を関連付けることで一人一人が自分の考えをもち、主体的に話し合い活動に参加することができる」と考え、授業を構想した。

4 事前の活動と評価計画

【計画委員会の活動】

日時	児童の活動	指導の留意点	目指す子どもの姿（観点）
10月10日（火） 昼休み	<ul style="list-style-type: none"> ・議題を選定する。 （提案された議題） ・係祭りをしよう ・季節のイベントをしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・議題に対する子どもたちの必要感や時期を考慮して選定することができるようにする。 	<p>◎よりよい学級生活をつくるために、進んで議題の選定をしようとしている。</p> <p>（主体的に学習に取り組む態度）</p> <p>【行動観察】</p>
10月11日（水） 昼休み	<ul style="list-style-type: none"> ・活動計画を立てる。 ・進行の仕方を確認する。 ・学級活動コーナーに掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日時や場所を教師が設定する。 ・提案者の思いを引き出し、全員が必要感をもって話し合うことができるようにする。 	<p>◎計画委員会の役割や話し合いの進行の仕方を理解している。</p> <p>（知識・技能）</p> <p>【活動計画、行動観察】</p>
10月20日（金） 昼休み	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いカードに目を通し、意見を整理して、話し合いの進め方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短冊や表を実際に使い、話し合いの進め方を、イメージできるようにする。 	

【学級全員の活動】

日時	児童の活動	指導の留意点	目指す子どもの姿（観点）
10月10日（火） 帰りの会	・議題を決定する。	・計画委員の提案の基、学級全員で決定する。	◎学級生活をよりよくするために、進んで議題を選ぼうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【行動観察】
10月17日（火） 昼休み	・話し合いカードに考えを書く。	・話し合うことや決まっていることを確認してから考えを書かせるようにする。	◎お礼の会の目的に沿って考えを書いている。 (思考・判断・表現) 【話し合いカード】
10月25日（水） 昼休み	・話し合いカードを受け取る。	・一人一人の話し合いカードに励ましの言葉を記入し、話し合いへの意欲を高めることができるようにする。	

5 事後の活動と評価計画（予定）

日時	児童の活動	指導の留意点	目指す子どもの姿（観点）
10月26日（木） ～ 休み時間	・準備を行う。	・活動の進捗状況を確認すると共に、必要に応じて帰りの会等で協力している姿を価値付ける。	◎合意形成したことを基に、協力し進んでお礼の会への準備に取り組んでいる。 (主体的に学習に取り組む態度) 【行動観察】
11月16日（木） 3校時	・お礼の会を行う。	・協力したり、友だちのよいところを探したりしながら活動することができるようにする。	◎活動のめあてや学級目標を意識しながら友だちと協力して活動に取り組んでいる。 (思考・判断・表現) 【行動観察, 振り返り】

6 本時の研究の視点

【視点1】議題を自分事として捉え、思いを高めるための事前活動の工夫

総合的な学習の時間と学級活動を関連付けて議題を設定する。また、これまでゲストティーチャーの話を聞いたり、安達太良山登山を経験したりして作成してきた学年発表に向けてのポスターを掲示する。そうすることで「お礼の会」への思いを高めると共に、子どもたちが自分の考えをもち、進んで話し合うことができるようにする。

【視点2】子どもと子どもの思いをつなぎ、合意形成を図るための教師のかかわり方

子どもたちが「お礼の会で何をするのか」を話し合う中で「どうしてその活動がお礼になるのか」について問い返すことで、子どもたち自身が「お礼」の活動の意味を明確にし、合意形成を図ることができるようにする。

7 本時で働かせる見方・考え方

- 4年生で協力してお礼を伝えるための活動は何かよいのかについて、理由を明確にしながらか発言したり、友だちの意見と比べて聞いたりする。
- 「自分もよく、みんなもよく」なるようにするために話し合い、合意形成を図ろうとする。

8 本時のねらい

友だちと互いの考えのよさを生かしたり、合意形成しようとしたりする話し合いを通して、ゲストティーチャーにお礼を伝えることができる活動について考えることができる。

9 学習過程

予想される学習活動・内容	◇主な教師の働きかけ ※評価
<p>1 始めの言葉 ～ 学級の歌 2 計画委員の紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 決まっていることの確認 6 話し合いのめあての確認 7 話し合い</p> <p>ゲストティーチャーの方々へのお礼の会をしよう</p> <p>話し合うこと「お礼の会で何をするか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 手紙を書く お礼を一人一人伝える 係の紹介を楽しんでもらう 安達太良山のポスターを発表する 等 <p>8 決まったことの発表 9 振り返り 10 先生の話 11 終わりの言葉</p>	<p>◇ 提案理由である「4年生みんなで協力して、心をこめてお礼がしたい」という思いを学級全体で共有した、これまでの学習の様子からどんな活動が必要かをイメージすることができるようにする。そうすることで、本時の話し合いと事後の活動への期待感や必要感を高めることができるようにする。</p> <p>◇ 国語科の学習を生かし「お礼の気持ちが伝わるか」「心をこめられるか」という観点で表に整理することで、理由を明確にして意見を比べ合うことができるようにする。</p> <p>◇ 必要に応じ「どうしてその活動がお礼になるのか」について問い返す。そうすることで、子どもたちがお礼の活動の意味を明確にし、合意形成を図ることができるようにする。 (視点2)</p> <p>◇ 考えが全体に伝わっていなかったり、話し合った内容が曖昧なまま進んでしまったりした場合には、機会を逃さずに教師が介入し、全体が納得して話し合いを進めることができるようにする。</p> <p>◇ 自分の考えに固執してしまったり、学級全体のことを考えることができなくなったりした際には「友だちの考えを生かす方法はないかな」等と、さらに考えを引き出すよう教師がかかわることで、子どもの思いを大切にしながら合意形成に向かうことができるようにする。</p> <p>◇ 振り返りを話し合いカードに記入する。その際に、友だちのよかった点についても振り返るよう働きかけることで、相互評価をすることができるようにする。</p> <p>◇ ゲストティーチャーの方々へのお礼について、理由を明確にして話したり、活動の意味を見いだしている姿を価値付けることで今後の意欲を高めることができるようにする。</p> <p>※ 友だちと互いの考えのよさを生かしたり、合意形成しようしたりする話し合いを通して、ゲストティーチャーにお礼を伝えることができる活動について考えることができる。(発言・行動観察・記述分析)</p>

10 板書計画

似顔絵	安達太良山の絵	かんしゃ状	山頂での記念写真を渡す	ポスター発表	係の紹介	お礼を一人一人伝える	◎決まっていること 手紙	活動
かんしゃの気持ちを似顔絵の下に書く。	みんなで登った思い出を飾ってもらう。	全員のお礼を伝えられる。	ぼくたちを忘れないでほしい。	二人のおかげで山のことを知れた。	楽しい時間になる。	お礼を直接伝えられる。	お礼を書いて、後からも読み返せる。	心がこめられるか

第十回 学級会

議題 ゲストティーチャーの方々へのお礼の会をしよう

提案理由

渡辺さんと中山さんには、安達太良山のことをたくさん教えてもらい、登山にも来てくれました。だから、4年生みんなで協力して、心をこめて、お礼の気持ちを伝えたいです。

話し合うこと

「お礼の会」で何をするか

◎手紙は全員書くこと